



環境学習講演会レポート

<第1回>

- 日 時 平成25年12月23日(月・祝) 13:30~15:00
- 場 所 山口県セミナーパーク 大研修室 (参加者 103人)
- 演 題 幸せな未来のつくり方 ~地球のためにすべきこと、できること~
- 講 師 枝廣 淳子 氏(環境ジャーナリスト)
- 講演要旨



異常気象などが温暖化のせいとは断言できないが、温暖化が進むと台風の増加による土砂災害の発生や、海面・海水温の上昇、地域により洪水と干ばつが生じるなど、生態系への影響などがある。

2013年9月のIPCCの最新の報告によるとCO2は更に増加しており、年により差はあるが平均気温は上昇している。気温上昇は人為的要因による可能性が高く、100年後は最大4.8℃上昇すると予想されている。COP16(2010年)では産業革命前に比べ気温上昇を2℃以内にすることを目標にして

るが、達成するためには2050年までにCO2排出量を半分程度にするなど、多くの人が思っている以上にCO2を大幅に減らす必要がある。温暖化問題はエネルギー問題でもあり、どのようなエネルギーを使うか(質の問題)、どれだけ使うか(量の問題)を考えないといけない。震災以降、エネルギーの1/3は減少したが、私達1人1人ができることに取り組むことが重要である。今日から世界中のCO2排出をゼロにしてもこれまでのCO2排出量の蓄積で20~30年間は温暖化が進む。大切なのはCO2を削減しつつも進行する温暖化に対して「備え」をすることである。

人口の増加、技術の進歩などにより地球に対する人間の影響が急激に大きくなり、現状だと地球1.5個分が必要である。本当に大事なことは何なのか。本当の幸せとは何か。地球と経済のつながりについて考え、価値観を変えることが大事である。

<第2回>

- 日 時 平成26年2月2日(日) 13:30~15:00
- 場 所 山口県セミナーパーク 研修室103 (参加者 99人)
- 演 題 地球温暖化と私たちの暮らし
- 講 師 中村 浩美 氏(科学ジャーナリスト)
- 講演要旨



衛星画像をみると地球環境は砂漠化が進み、海面温度が高くなった暖かい海も多くなっている。産業革命以降、エネルギー源が化石燃料に変わりCO2濃度が高くなってきたためである。このまま温暖化が進むと今世紀末には平均気温が0.3~4.8℃上昇し、生態系の変化や感染症等も増えてくる。

現在の日本のエネルギー自給率は4%で、3.11の震災前の原子力発電を入れても19%と低い。日本は島国なのでヨーロッパ等と違い国単位でエネルギー供給を考える必要があり、「ベストミックス」という考え方(省エネ、新エネルギー、原子力発電)を進めてきた。業務部門の省エネについては進んでいるが、民生、運輸部門は大きく増加しているので、今まで以上の省エネに努める必要がある。再生可能エネルギーの導入も進めており、太陽光発電設置数は世界3位であるが、安定的に供給できないという大きな問題や設置に多くの土地や経費が必要となる。また、発電分を電力会社が買い取るため、電気料金が高くなるという問題もあり、導入には限界があるものと考えられる。



環境学習講座参加者の感想

環境学習推進センターでは年間を通して様々な環境学習講座を実施しています。今年度、特に申込者の多かった「再生可能エネルギーについて考える」(2回開催)の参加者に講座に参加した感想などをお寄せいただきました。

<山根さん(女性)> 第1回 11月19日参加

昔に比べてごみの分別が細かくなってきました。新聞や牛乳パック、缶、ビン、金属などは再び製品に生まれかわることは想像できます。しかし、廃材や硬質プラスチック、陶磁器などはどうなるのだろうと、いつも疑問に思っていたのですが、今回の見学でこの疑問が解けました。

(株)ミツウロコ岩国発電所では、工場敷地内に色々な木質チップが積みまわっていました。廃木材や間伐材、中にはオランウータンの棲息地を脅かしていることで有名なパームヤシの絞りかすまでありました。敷地内の木質チップの量が思ったより少なかったのですが、「大量に積むと発火の恐れがある」との説明で納得しました。



(株)トクヤマでは、木質チップや硬質プラスチックの燃料利用以外にも、廃陶磁器を細かくしてセメントの材料に利用していることを知りました。埋立処分されているのかと思っていましたが、リサイクルされていたことに驚きました。帰りのバスの中で重田所長が「山口県は三重県を抜いてリサイクル率が日本1になりました。(注:現在2位です)」と言われました。それを聞いて驚くと共に周りの人にもこのことを伝えたいと思いました。



これからもごみの分別をしっかりとやっていきたいと思います。最後に若い世代の方々にもこのような工場を見学する機会があればいいなと思いました。

<村元さん(男性)> 第2回 11月26日参加

民間会社に勤務しているときに「環境にやさしい素材」の開発に携わりました。それがきっかけとなり、全国の農業施設や大学に出向き、多くの方と知己になり、環境に関する視野がより広がりました。退職後、広島県で公衆衛生推進協議会に携わっていたので、官と民で習得した知識をレベルアップし、地域活動に励みたいと思っていたところ、再生可能エネルギー講座があることを知り、現状を知りたく講座に参加しました。



(株)ジオパワーシステムでは、住宅用の地中熱利用システムを見学しました。日本は火山国なので、このシステムは大いに活用できるのではないのでしょうか。今後いろいろな規制が緩和され、自然エネルギーを大いに活用できるシステムが確立できることを望みます。

やまぐち県酪乳業(株)では、メタンガス発酵プラントで再生エネルギーの活用を見学しました。小規模ではありますが行政支援をもっと増やし、他の事業所においても活用してほしいものです。ただ、メタンガスの取り扱いは地球温暖化に対して今後留意する点は重要だと感じています。

参加者の環境に対する意識レベルは高く、質疑応答が活発で多くの仲間ができました。今後は学習した内容を活動の糧にし、現状の点の活動を線でつなげる地域活動に励みたいと思います。





環境学習指導者の紹介！

今年度、こども環境学習講座「エコっこスクール2013」を県内の色々な場所で実施しました。お世話になった指導者の方を紹介します。

ましの かずゆき 増野 和幸さん(6月15日開催 生きもの観察隊 in 秋吉台)

◇カタツムリに興味を持ったきっかけを教えてください。

愛知県で中学校の教師をしていた時、校外学習で近くの博物館に出かけた際、展示ケースの中に、世界でその裏山にしか生息していない「シイボルトコギセル」という煙管形の殻のカタツムリが展示してありました。カタツムリはどれも同じで、殻の形はどれも丸いものだと思っていましたが、今までのカタツムリのイメージが壊され、とても新鮮に感じました。カタツムリはその場所場所で違う種類が住んでいて、湿気の多いじめじめした場所を好む一見不潔な生きものようですが、実はとてもきれいな好きな生きものであることも知り、このギャップにも魅力を感じ、引率した教師の自分の方がはまってしまいました。

◇観察会や学習会などとおして伝えたいことは何ですか？



日頃、目を向けることのない自然に目を向け、嬉々としてカタツムリを手にとって見る姿を見ると、子どもも大人も、もともとは自然が好きなんだと感じます。カタツムリでなくても、何か自然の中で興味を持てるものを通して自然の不思議や素晴らしさに触れることができるようになってほしいですね。

いまい としお 今井 敏夫さん(7月6日開催 山と川の生きもの観察隊 in 鹿野)

◇自然観察を始めたきっかけを教えてください。

定年前に鹿野で農園を借りていた時に山野草園を知りました。山谷を切り開き350種の山野草が植えてあり、その種類の多さと四季折々に可憐な花を咲かす山野草の魅力に取りつかれました。

定年後、自宅にビオトープを持ちたいとの思いもあり、自然観察指導員を受講し、それをきっかけに自然観察会に入会しました。現在は自生している山野草の写真を撮り、写真集を作って皆に紹介しています。

◇観察会や学習会を通して感じる事や伝えたい事は？

参加者全員(特に子ども)に興味を持たせるよう参加型の観察会にしています。見て聞くだけでなく、探す・捕まえる・食べるなど五感を使って観察するようにしています。学習会でも参加者に質問して回答させ、答えの中からまた質問を何度も繰り返す参加型の学習で参加者に緊張感を持たせています。

子ども達は、きっかけを掴むと自分たちで学習していき、興味を持つと無限の可能性を秘めています。自然の良さ、美しさ、バランス、共生、絶滅、保護などが伝わって自発性が出るような観察会をしていきたいと思ひます。私は学者ではないので、これからも難しいことは避けて遊び心を持って接していきたいですね。



セミナーパークふれあいフェスタ2014 春

5月18日(日)10:00~15:30

環境学習推進センターでは、スタンプラリーとリサイクル工作で楽しく環境を学べます。たくさんの方のご来場をお待ちしています。



環境活動団体活動レポート！

環境活動団体では環境保全や体験など様々な取組や活動を行っています。
今回は「古市節分草保存会」と「宇津木の里」の活動に参加しましたので紹介します。

古市節分草保存会

平成 21 年に岩国市錦町広瀬で節分草が発見されました。保全活動をしなが、地域活性化を図る“節分草と共生するまちづくり”を目的に、地元の人を中心に保存会を結成されました。(会員 34 名)
現在、草刈などの保全活動、自生地拡大のための候補地整備のほか、地元の小学生にも節分草に触れる機会を設け、健全な里山のあり方や希少な植物についての学習会を開催しています。

◇2月19日(水)に開催された節分草の地元公開取材しました。



地元の錦清流小学校の児童の見学会では、「節分草を守ってきたのは？守っていくのは？」の紙芝居がありました。節分草は草刈等の手入れが入らないと大型草木や常緑樹が進出して絶えてしまうことや、桜と節分草の花の模型で節分草の花びらと間違っているところは「がく」で、開花から日数がたつとめしべとおしべが離れ、おしべから花粉を出すなどの説明がありました。児童は一つ一つの花を見比べながら興味深そうに観察していました。

毎年実施されている一般の方を対象にした特別公開が2月21日(金)～23日(日)に開催され、400人も多くの方がこの地を訪れました。節分草の可憐な花を見て人と自然の関係について考えていただけたものと思います。



宇津木の里

「宇津木の里」は山口市下小鯖千坊地区の約7haの森林を活動拠点として、平成 14 年 12 月に設立されました。(会員 40 名)

主な活動は年間数回の荒廃森林整備のほか、夏休み期間に親子を対象とした自然観察会や椎茸駒打等の里山体験活動などを実施しています。

(その昔、同地区では、卯の花(ウツギの別名)がたくさん咲いていたことから「宇津木の里」と名付けられました。)

◇3月1日(土)に開催された「第5回交流会」取材しました。

今回の活動は森林整備と椎茸原木の運搬・菌打ちで、里山を保つための間伐や枝打ちと下刈りを実施しました。参加者は手慣れた様子で作業を進め、2時間くらいで地面まで日光が届く明るい里山になりました。宇津木の里では年間を通して森林整備を実施しています。平成21年の豪雨災害時には手入れをしていない近隣の森林は土砂崩れや土石流が発生し大変な被害でしたが、宇津木の里では特に被害はなかったそうです。

里山の中にため池があり、初夏にはモリアオガエルの産卵が見られるそうです。他にもサンショウウオも産卵に来るそうです。この交流会以外にも夏には親子里山体験などを開催しています。詳細は下記にお問い合わせください

連絡先 山口中央森林組合 TEL 083-941-0011



＜編集後記＞最近、わが家の近くでヌートリアが目撃されました。近隣にブラックバスやジャンボタニシがいるのは知っていましたがヌートリアまで…ショックでした。身近な自然環境は日々変化してきていることを痛感した出来事でした。(藤井)

発行元 (公財)山口県ひとつづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター
〒754-0893 山口市秋穂二島1062 (山口県セミナーパーク内)
TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720
URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>